



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

## 『生きる』ということ

校長 永浜 裕之

女流将棋棋士「高橋 和（やまと）」さんの夫から伺った話です。

「我が家に天使のような少年が舞い込んできたのは、今年のまだ寒い頃のことだった。舞い込んできたといっても、彼と実際にあったことはない。私の妻が手紙のやり取りを始めたのだ。きっかけは、少年の父親が病気に苦しむ我が子の気を少しでも紛らわせるために、妻のホームページにメールを送ったことだった。『子供が高橋先生のファンなので、サインをくれないか』というものである。少年はどこかで妻の名前や顔を知り、ファンになったようだった。彼女は、『サインをするのは構わないけれど、父親からではなく、本人からの手紙が欲しい』と返事を出した。それから間もなく、少年から我が家に手紙が届いた。

『高橋先生。いつもテレビを見ています。お父さんのメールに返事を下さり、お手紙を書いて夢のようです。』という書き出しで手紙は始まった。子供の頃から重い病気を患っていて入退院を繰り返してきたそうだ。9歳というから小学校4年生。私の妻が、子供たちに将棋を教えていることを知り、僕もいつか教えていただきたい、先生に習っている子供たちがとてもうらやましいですと、素直に書かれていた。そして、『お父さんから、高橋先生も子供の時に交通事故で大変だったと聞きました。まだ苦しいですか、痛くならないようにお祈りしています。』という言葉で手紙は締めくくられていた。私の妻は4歳の時に交通事故に遭い、左足を切断する寸前の重傷を負った。小学生時代には何度も手術を繰り返してきた。そのことを父親から教えられて、足が痛くならないようにと病床でお祈りしてくれているのだ。

妻がサイン色紙と、使い古しの扇子と手紙を出し、27歳の女流棋士と9歳の少年の交流が始まった。

少年は自分が大切にしている宝物を次々とプレゼントとして送ってよこした。いつも病床で少年を見守っていたという白いテディベアのぬいぐるみ、父親に買ってもらったという「たまごっち」や、大好きなテニス選手の直筆サイン。身の回りで起こったことも几帳面な字で一糸懸念に書き添えて、そして手紙の最後には必ず『高橋先生の足が痛くならないようにお祈りしています』と締めくくられていた。

その頃に父親からもらった手紙で、どうやら少年の病が不治かそれに近いものであることを知った。医者からは覚悟をしておいてくれと言われていたとあった。生まれた時には既に、何日生きられるか分からないという状況だったらしい。手紙の中にチラホラ出てくる抗がん剤、副作用という文字から、少年の抱えている病状の深刻さを類推する他はなかった。

それでも少年は元気に生き延びた。10歳になった喜びを素直に手紙に綴ってくれた。会いに行こうかと、こちらから提案したこともあった。しかし、『あまり興奮させると体調に響くかもしれない』という医者の判断もあって様子を見ていた。少年からは、約束していた彼の写真が送られてくることもなかった。病気で弱っている自分の姿を憧れの人に見せたくないという少年の気高さがそうさせたのだと思う。

ある日届いた少年からの手紙は、明らかにそれまでのものとは違っていた。一文字一文字が大きく乱れていて、見るからにやっとのことと書いているという雰囲気なのである。それからすぐに来た父親からの手紙には、少年がついに恐れていた状態に入ってしまったことが綴られていた。癌性悪液質という言葉が、私達の心を乱した。

『痛いんです。苦しいです。』と書かれている言葉に何と答えればいいのか。少年は末期癌の苦しみの中で、必死に手紙をしたためているのである。『お手紙嬉しかったです。いつまでもお友達でいて下さい。』と、まるで泣き叫ぶような字で書かれている。そして末尾には、『高橋先生の足が痛くならないようにお祈りしています』と書かれている。

私も妻も泣いた。少年の置かれている苦しい状況に、そして、そんな激しい痛みや苦しみの中でさえ、自分の事よりも、他人の足の痛みを思いやれる少年の優しい心に。何もしてやれない悔しさもあったが、少年が懸命の思いで与えてくれているものの大きさに、胸がしめつけられる思いがした。

最後の手紙を書いた数日後に少年は亡くなった。『あまりにもかわいそうに思った神様が、息子に最後の恋をさせてくれたのだと思います』と、父親から手紙が届いた。そして、『病気の苦しみを、どれだけ紛らわしてくれたことか』と、感謝の気持ちが綴られていた。少年から初めての手紙をもらってからわずか3ヶ月。少年は亡くなる前日まで、妻の足が痛くならないように祈ってくれたそうである。少年がくれた純白のテディベアは、リビングの出窓に座り、今も私達の生活を静かに見守り続けている。」

だいぶ長くなりましたが、このような話です。

この少年はもっと生きてかっただけに違いありません。しかし、残酷にも死が、その希望を奪い去ったのです。同じようなことは、世の中にたくさんあります。今、この瞬間にも、世界のどこかで戦争のために死んでいく人がいます。交通事故によっても、生きたいと切望する命が奪われています。そんな現実を見つめると、元気な我々は、たとえ辛くても、生きていかねばならないと考えます。

私は、生徒の皆さんが、『生まれてきた、そのことだけでも素晴らしいことなのだ』と気づき、自分にできることが何かあるのではないかと、自分の命が活かされ、誰かに優しくできるのでは？とか、そんな思いが育まれる』と、嬉しいです。

皆さんの日常の中に、自分なりの光が見出されることを祈っています。

## 着任のあいさつ

副校長 西牧 桂

今年度より、都立志村学園から本校へ着任しました定時制課程副校長の西牧桂と申します。4月1日よりお世話になっております。どうぞよろしく願いいたします。

都立新宿山吹高等学校の特色の一つに、都民に開かれた生涯学習講座があります。本校では、生涯学習社会に対応するため、高等学校の教育課程に基づき、教科・科目の一部領域を取り出して深く学習できるように、一般教養やスポーツ、料理、英会話、芸術等、15講座を開講しています。

文部科学省では、国民一人一人が生涯を通して学ぶことのできる環境の整備、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価され、それを生かして様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりなど、生涯学習社会の実現のための取組を進めています。生涯にわたって、学習すること、目標に向かってチャレンジすることは、とてもかけがえのないことだと考えます。

先日、「世界最高齢83歳 太平洋単独横断」というニュースが報じられました。海洋冒険家の堀江謙一（ほりえけんいち）さん（83）が、ヨットによる世界最高年齢での単独無寄港太平洋横断に成功し、新たな歴史を刻みました。堀江さんが乗る「サントリーマーメイドⅢ号」は、日本時間3月27日にアメリカサンフランシスコ出航から69日間かけて、6月4日未明、紀伊日ノ御崎（ひのみさき）灯台（和歌山県）と伊島灯台（徳島県）を結ぶゴールラインを越え、約8,500キロの航海という偉業を成し遂げました。

堀江さんは、昭和37年（1962年）5月12日、23歳のときに小型ヨット「マーメイド号」で、単独無寄港太平洋横断を目指して、兵庫県西宮を出港し、同年8月12日、アメリカサンフランシスコに入港し、航海を達成しました。日本人による単独無寄港太平洋横断は初めてのことで、航海日数は94日でした。当時は、ヨットによる出国が認められなかったため、「密出国」という形になりました。堀江さんがサンフランシスコに到着したとの連絡を受けた大阪海上保安監部は、「アメリカからは直ぐ不法出入国者として強制送還され、日本に着くと直ぐ捕まえられることになる」との見解を表明しました。しかし、サンフランシスコ市長ジョージ・クリストファーが、「コロンブスもパスポートは省略した」と、尊敬の念をもって名誉市民として受け入れ、1か月間の米国滞在を認めるというニュースが日本国内に報じられたところ、日本国内のマスコミ及び国民の論調も手のひらを返すように、堀江さんの「偉業」を称えるものに変化しました。堀江さんが、帰国後に執筆した航海記「太平洋ひとりぼっち」は、ベストセラーになり、映画化されるなど、時代の寵児として脚光を浴びることになりました。

今回は、60年前とほぼ同じ寸法のヨットで、当時とは逆のルートをたどることになりました。このたびの航海の状況は、日々衛星電話で陸上のスタッフに伝えられ、航海日記としてWebサイトで公開されてきました。航海日記によると、日本に近くにつれ、暖流の黒潮が大きく南に迂回する「黒潮大蛇行」や悪天候に悩まされ、後退することも度々あったとの記載がありました。孤独な航海では、小中高生らとのアマチュア無線交信が励みになり、天候や潮流の変化に悩まされながらも熟練の技で駆け抜けたといえます。堀江さんは、「100歳までチャレンジャーでいきたい」と記者会見で抱負を述べました。満ち溢れるチャレンジ精神には、敬服いたします。

「人生100年時代」「超スマート社会（Society5.0）」に向け、社会が大きな転換点を迎える中、生涯学習の重要性は一層高まっています。予測困難なこれからの時代において、常に社会の変化を柔軟に受け止め、生涯にわたって様々なことに粘り強く挑戦し、自ら学び続けていく姿勢が必要とされています。これまでのロールモデルに頼るのではなく、一人ひとりが、個性や能力を最大限に伸ばし、自らの希望や意思に基づいて、人生を選択できるようにしていく必要があります。教育には、その素地を養うことが求められています。

堀江さんが出航前に語った「苦しいことも、夢の達成にたどり着くための一歩と思えば乗り越えられる」との言葉が、とても印象的でした。言葉どおり、最後まで長年の経験や技術を生かして諦めずにゴールにたどりつくことができました。感動的な朗報に勇気づけられ、生涯にわたって学習すること、目標に向かってチャレンジすることを体現したい気持ちになりました。

### 定時制課程 学校行事予定

6月13日（月）	体力テスト（始） 避難訓練
16日（木）	自己探索学習②
17日（金）	体力テスト（終）
24日（金）	上級学校授業体験 「人間と社会」演習
7月4日（月）	自己探索学習③
13日（水）	卒業生を囲む会
14日（木）	保護者会
15日（金）	個別面談
18日（月）	海の日
19日（火）	個別面談
20日（水）	全校集会、球技大会
21日（木）	夏季休業日（始）

### 通信制課程 学校行事予定

6月11日（土）	スクーリング1-6
18日（土）	スクーリング1-7
25日（土）	スクーリング1-8
7月2日（土）	スクーリング1-9
9日（土）	スクーリング1-10
16日（土）	スクーリング1-11
18日（月）	海の日
21日（木）	Web学習コース 夏季集中スクーリング
22日（金）	Web学習コース 夏季集中スクーリング
25日（月）	Web学習コース 夏季集中スクーリング
26日（火）	Web学習コース 夏季集中スクーリング
27日（水）	Web学習コース 夏季集中スクーリング
28日（木）	Web学習コース 夏季集中スクーリング
29日（金）	Web学習コース 夏季集中スクーリング